

と し さ い せ い せ い び け い か く だ い か い へ ん こ う
都市再生整備計画(第6回変更)
む こ う し ち ゅ う し ん し が い ち お よ な が お か き ゅ う あ と し ゅ う へ ん ち く
向日市中心市街地及び長岡宮跡周辺地区

き ょ う と ふ む こ う し
京都府 向日市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	■
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	京都府	市町村名	向日市	地区名	向日市中心市街地及び長岡宮跡周辺地区	面積	233	ha
計画期間	平成30年度～令和4年度	交付期間	平成30年度～令和4年度					

目標
○大目標:「歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり」 目標1 交通結節点の機能を充実させ、にぎわいと活力あるまちづくりを推進する。 目標2 市民交流を活発化し、ふるさと向日市に対する愛着と誇りを高める。 目標3 歴史資源を活かした魅力あるまちづくりを推進する。
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 本市では、大都市への交通利便性の高さや、新市街地の整備等により、近年、子育て世代を中心に人口が流入して。しかしながら、将来的には人口減少と高齢化が一層進むことから、活力と魅力あるまちづくりを進めていく必要がある。 このため、「人が集うふるさと向日」を目指して、市中心部の鉄道駅周辺や幹線道路沿いの「中心にぎわいゾーン」において、都市機能の誘導や都市基盤の整備を進める。
まちづくりの経緯及び現況
・本市は京都府南部乙訓地域に位置し、京都市都心部からは、南西に約7kmの位置にある。 ・本市の北側、東側、西側を京都市と、南西側の一部を長岡京市と接し、西部一帯は向日丘陵が横たわり、竹林が広がる緑豊かな地域となっている。 ・市域は、東西2km、南北4.3km、面積7.72km ² の西日本で一番小さな市(全国で3番目)であり、人口密度は、73.1人/haと京都府下で最も高い。 ・市内に鉄道駅3駅、市境に2駅を有し、交通利便性が非常に高い地域である。 ・市域の東側には国道171号や名神高速道路が通っており、また市の西方には平成25年4月に開通した京都縦貫自動車道が通っている。 ・市北部において、区画整理事業による新たな市街地が形成され、一時的に人口が増加している。 ・本市には、かつての日本の都である長岡京(784年～794年)の中心地が置かれ、我が国の政治や経済、文化の中心として栄えた地である。 ・本市には、史跡長岡宮跡大極殿、重要文化財の向日神社、史跡乙訓古墳群、西国街道の古い町家など数々の古都向日の歴史、文化を伝える観光資源が豊富に分布している。 ・本市では、平成25年度から平成29年度で「貴重な歴史を感じながら楽しく周遊できるまちづくり」として、都市再生整備事業に取り組み、平成27年2月には、向日市歴史的風致維持向上計画が国からの認定を受けた。 ・市域を南北に貫くJR東海道本線により、東西に地域分断されていることから、土地利用の格差が生じている。JR向日町駅には、西側にしか改札口がなく、東側の住民にとって利便性が低い。 ・住宅都市として発展してきたことから、産業の立地が進んでこなかった。近年、井上電機製作所・キリンビールと工場の撤退が相次ぎ、さらに産業用地が減少している。 ・市民活動の拠点である市民会館が老朽化し再整備を検討していたが、平成27年度に施設の耐震診断を行ったところ、基準値を大きく下回る結果(Is値＝0.18<0.75)であり、安全に市民が利用することができないことから、平成28年4月から休館することとなった。現在、市民会館の代替施設として市内にあるイオンモール京都桂川のイオンホール、地区公民館、コミセンなどを利用。その他、近隣自治体のホールを利用されている状況にある。
課題
・昭和50年代前半までに大都市近郊住宅都市として、急速に開発が進んだことから、都市計画道路の整備率が33%にとどまるなど、道路網の整備が進んでいない。 ・観光資源が分散しているが、それらを周遊するために、適切な情報を提供することのできる場が十分でない。また、団体客の訪問に供する、大型バスを駐車できる場所がない。 ・駅東側では新たなまちづくりへの動きが加速しており、駅機能を向上させ、東側の新たなまちづくりのにぎわいを既成市街地である西側へ取り込む必要がある。 ・まちづくりの主役は市民であり、市民の活動の活性化が重要である。近年の市民会館の利用者は、減少の傾向にあったことから、再整備を機に、交流拠点としての機能向上を図り、市民活動を活性化させる必要がある。 ・本市固有の歴史・文化資源を活かした整備を行い、市民が愛着と誇りを持つことができ、市外の人々にとって訪れてみたいと思われるよう、まちの魅力をさらに高める必要がある。 ・公共施設の老朽化が進んでおり、ストックマネジメントを考える中で、時勢に見合った改良を行う必要に迫られている。 ・本市は、京都・大阪のベッドタウンであることから、定住人口に対して交流人口が非常に少なく、まちのにぎわい創出が課題である。
将来ビジョン(中長期)
・第2次ふるさと向日市創生計画(令和2年3月策定)において、施策の柱として、『歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり』を掲げ、歴史あふれる街づくりの推進、産業の活性化、都市基盤の整備を挙げている。 ・第3次向日市都市計画マスタープラン(令和2年3月策定)において、中心都市拠点の整備が示されている。 ・向日市歴史的風致維持向上計画(平成27年2月策定)において、歴史的建造物などの保存・活用やまちなか回遊性の向上などの整備方針が示されている。 ・向日市公共施設等総合管理計画(平成29年3月策定)において、市民文化系施設について、更新時には、利用状況や市民ニーズを踏まえ、施設の複合化・集約化を検討するとしている。 ・観光戦略プラン(平成28年3月策定)において、観光客の受け皿整備、観光に取り組む人材育成、観光資源の共有を通じた地域協働体制の整備を掲げている。

都市構造再編集
都市機能配置の考え方
まちの賑わいを創出するため、JR向日町駅、阪急東向日駅の周辺やこれら駅と市役所を結ぶ都市軸沿道に、子育て施設、健康福祉施設、医療施設、商業施設等の生活利便施設の誘導を図ります。
都市の魅力を高めるとともに、歩いて暮らせるまちの実現を図るため、街の顔であるJR向日町駅周辺において、鉄道による市街地の分断を拐取する自由通路の整備や、市街地再開発事業による駅周辺の高度利用化、交通結節点の向上を図る駅前広場等の公共施設の整備を行い、駅前地域にふさわしい都市機能の集積や地域の活性化を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
子育て世代の定住や高齢化社会への対応を図るため、子育て施設や健康福祉施設、医療施設等の都市機能の誘導を図る。
市民が住み続けたいと思えるように、生活利便性を高めるため、駅周辺への商業施設等の都市機能の誘導を図る。
まちの魅力を高めるため、駅周辺の高度利用化を図るとともに、自由通路や駅前広場等の整備を行い、駅の交通結節点機能の強化や駅周辺の交流人口の増加を図る。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
JR向日町駅乗降客数	人／日	JR向日町駅の1日乗降客数(人)	都市機能の整備や強化を図り、来訪者数を増加させ、中心市街地の活性化を図る。	15,430	H27	17,000	R4
地域交流センター利用者数	人／年	地域交流センター(市民会館)の年間利用者数(人)	地域交流拠点の整備により、市民活動や市民相互交流の活性化を図り、ふるさと向日市への愛着、誇りの意識向上を図る。	46,103	H27	50,000	R4
観光客数	人／年	向日市の観光客数(人)	都市機能の強化と歴史を活かしたまちづくりを推進することにより、来訪者数の増加を図る。	324,699	H27	402,000	R4

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
①交通結節点の機能を充実させ、にぎわいと活力あるまちづくりを推進する。 JR向日町駅に東西自由通路を整備し、駅前広場整備と一体整備を行い、まちの活力を高める。 観光交流センター(観光案内所)を整備し、本市観光の情報提供や地場物産を広め、地域の活性化に寄与する。		■都市構造再編整備集中支援事業 ・【基幹/地生】西口駅前広場 ・【基幹/地生】東西自由通路 ・【提案/調査】向日町駅周辺安全対策検討調査 ■都市再生整備計画事業 ・【基幹/高次】観光交流センター(観光案内所) ・【提案/調査】官民連携既存ストック活用調査 ・【提案/まち推】まちづくり活動促進 【関連】向日町駅橋上駅舎整備事業、JR向日町駅周辺地区市街地再開発事業、向日市森本東部地区区画整理事業、周辺道路整備事業、周辺街路整備事業
	②市民交流を活発化し、ふるさと向日市に対する愛着と誇りを高める。 市民会館の再整備に合わせ、市民ニーズに沿った施設整備し、住民相互の交流を活性化させる。 観光交流センター(観光案内所)を整備し、本市観光の情報提供や地場物産を広め、地域の活性化に寄与する。	■都市構造再編整備集中支援事業 ・【基幹/高次】地域交流センター(市民会館) ■都市再生整備計画事業 ・【基幹/高次】観光交流センター(観光案内所) ・【提案/まち推】まちづくり活動促進 【関連】市役所建替事業
	③歴史資源を活かした魅力あるまちづくりを推進する。 既存の歴史的建造物等を活用し、地域の歴史や文化に触れる体験、交流、まちづくり活動等の拠点となるよう改修、整備を行う。 市内観光拠点の回遊性を向上させる。	■都市構造再編整備集中支援事業 ・【基幹/既存】観光交流センター(旧上田家住宅) ・【基幹/高質】観光ルートカラー舗装 ・【基幹/地生】ポケットパーク整備 ■都市再生整備計画事業 ・【基幹/道路】西国街道美装化 ・【提案/まち推】まちづくり活動促進 ・【提案/調査】官民連携既存ストック活用調査
その他		
●事業終了後も、継続的に市民によるまちづくり活動が活発に行われるよう、まちづくりの機運を高められるように取り組んでいきたい。		

様式(1)-④-1

(金額の単位は百万円)

統合したB/Cを記入してください

合計(A+B)	839.4
---------	-------

	0
--	---

	25.38
--	-------

様式(1)-④-2

(金額の単位は百万円)

...A

...B

(参考)都市構造再編集中支援事業関連事業

(参考) 関連事業

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること

凡例

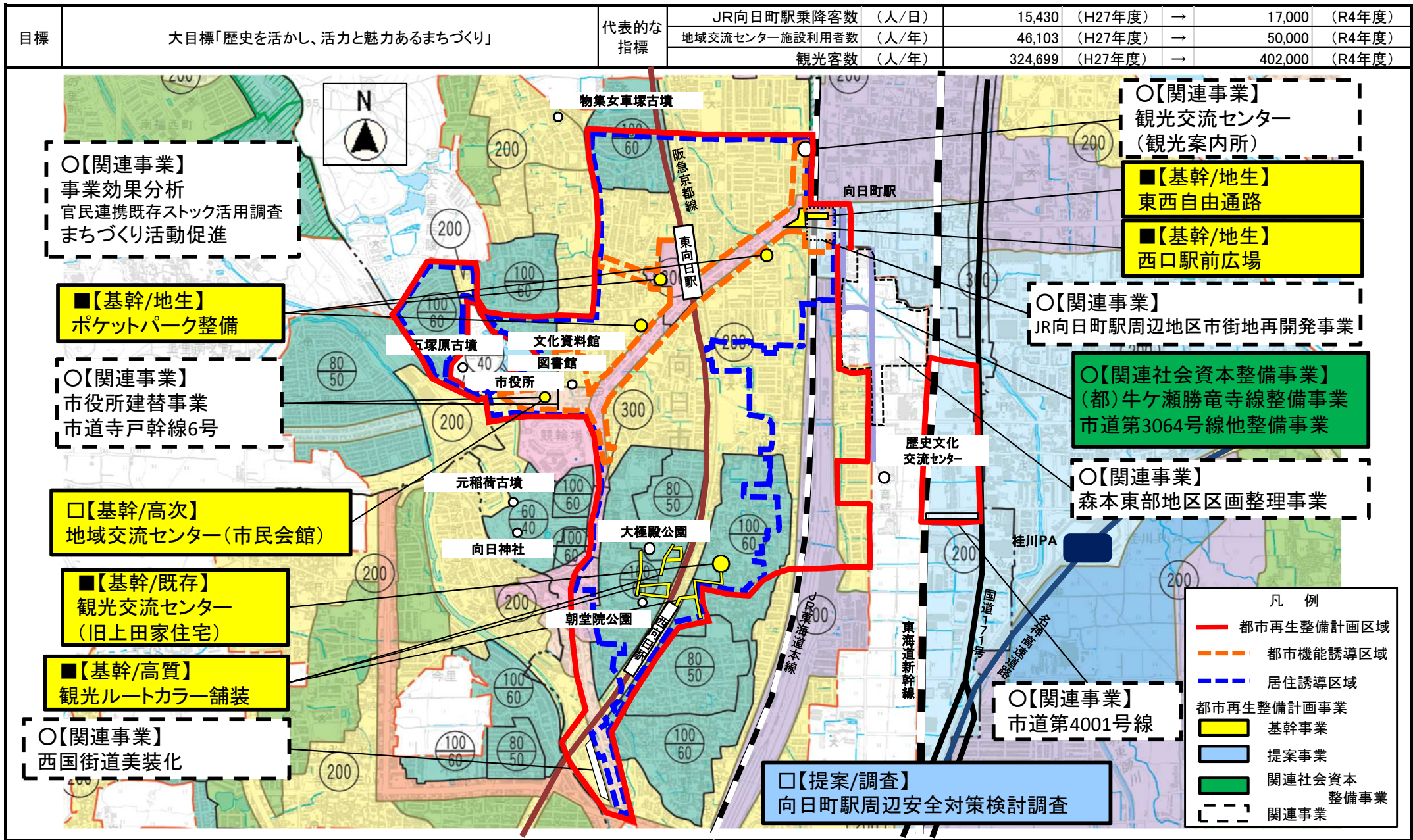
- 高速道路
- 国道
- 新幹線
- JR
- 阪急電鉄

凡例

- 都市再生
- 整備計画区域
- 都市機能誘導区域
- 居住誘導区域

むこう しちゅうしん しがいち およ ながおかきゅうあとしゅうへんちく

向日市中心市街地及び長岡宮跡周辺地区(京都府向日市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)



向日市中心市街地及び長岡宮跡周辺地区(京都府向日市) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	大目標「歴史を活かし、活力と魅力あるまちづくり」	代表的な指標	JR向日町駅乗降客数 (人/日)	15,430 (H27年度)	→	17,000 (R4年度)
			地域交流センター施設利用者数 (人/年)	46,103 (H27年度)	→	50,000 (R4年度)
			観光客数 (人/年)	324,699 (H27年度)	→	402,000 (R4年度)

